

ジェンダー統計の観点からの性別欄検討ワーキング・グループ の開催について（案）

令和 4 年 4 月 19 日
計画実行・監視専門調査会

1. 趣旨

各種統計調査等における性別欄については、「男性」又は「女性」のどちらかを選択するものが多く見られる。

一方で、トランスジェンダー等への配慮を理由として、近年、性別欄を廃止するという動きが見られるところであり、ジェンダー統計の観点からは、男女別データが取得できなくなることについての懸念が生じている。

第5次男女共同参画基本計画（令和2年12月25日閣議決定）においては、「ジェンダー統計における多様な性への配慮について、現状を把握し、課題を検討する」こととされている。男女共同参画の推進に当たっては、状況や課題を適切に把握するための男女別データの利活用を促進し、ジェンダーに関する視点を盛り込んだ政策の企画・立案・実施につなげることが重要である。

ジェンダー統計の観点から、各種統計調査等における多様な性への配慮についての現状を把握し、課題を検討するため、計画実行・監視専門調査会の下に、ジェンダー統計の観点からの性別欄検討ワーキング・グループ（以下「ワーキング・グループ」という。）を開催する。

2. 構成

ワーキング・グループは、別紙に掲げる者をもって構成する。

3. 運営

ワーキング・グループの運営は、計画実行・監視専門調査会運営規則（令和3年5月12日計画実行・監視専門調査会決定）の規定するところに準ずるものとし、これにより難しい場合には、座長が、ワーキング・グループの意見を聞いて、取扱いを定めるものとする。

ジェンダー統計の観点からの性別欄検討ワーキング・グループ
構成員名簿

岩 本 健 良 金沢大学人間社会研究域准教授

釜 野 さ お り 国立社会保障・人口問題研究所人口動向研究部第2室長

神 谷 悠 一 性的指向および性自認等により困難を抱えている当事者等に対する法整備のための全国連合会（L G B T 法連合会）事務局長

神 林 龍 一橋大学経済研究所教授

塩 見 朋 子 株式会社資生堂ダイバーシティ&インクルージョン戦略推進部
D&I エンパワーメントグループ グループマネージャー

繁 内 幸 治 性的指向および性同一性に関する理解増進会（L G B T 理解増進会）代表理事

下 山 裕 子 群馬県生活こども部生活こども課男女共同参画室長

○白波瀬佐和子 東京大学大学院人文社会系研究科教授

杉 橋 や よ い 専修大学経済学部教授

〔 ○印：座長 〕

<関係省庁>

総務省政策統括官（統計制度担当）付統計企画管理官室